

## 放射性物質分析・研究施設第 1 棟における給排気設備の風量不足と 運用開始時期見直しについて

現在、建設中の放射性物質分析・研究施設第 1 棟の単体作動試験において、給排気設備<sup>※1</sup>の風量不足が確認され、またこれに伴う対応のため、運用開始時期の見直しを行う件についてお知らせいたします。

### 【施設の概要】

放射性物質分析・研究施設第 1 棟は、特定原子力施設の一部として東京電力ホールディングス株式会社が原子力規制委員会に実施計画を申請するとともにその保安を統括し、日本原子力研究開発機構が設計・建設、運営（分析実務及び給排気等の施設運転）を担当する施設です。同施設は整備工事の終盤を迎えており、2020 年 12 月に単体作動試験を開始、2021 年 2 月より総合機能試験を開始しておりました。

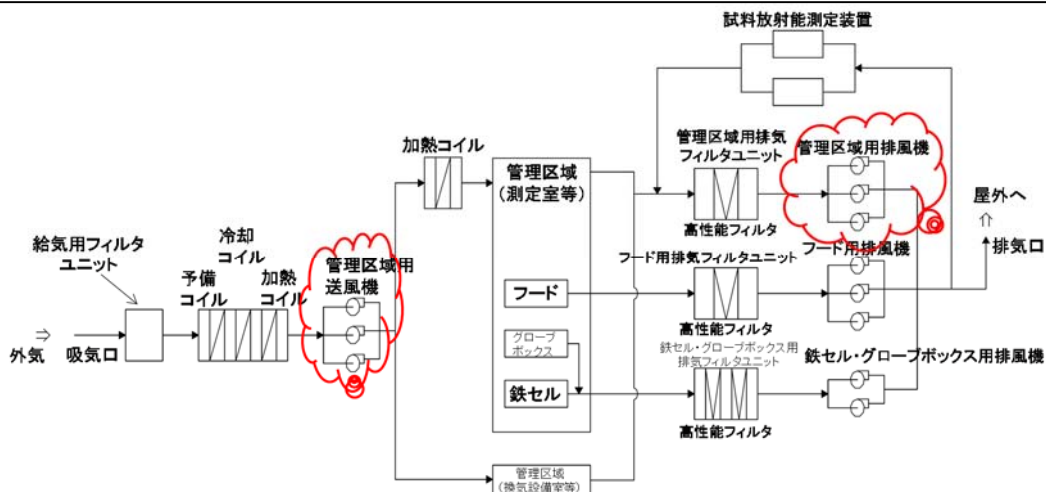
### 【給排気設備の風量不足と運用開始時期見直しについて】

給排気設備のうち管理区域用送風機及び管理区域用排風機について、個別の設備毎に作動確認の試験をしたところ、単体作動試験の一環で行った 2 台運転試験時<sup>※2</sup>に、風量不足が確認されました。総合機能試験を進めつつ並行して対策を実施してきましたが改善しなかったため現在総合機能試験を中断し、原因調査と対策検討をしています。

これに伴い、2021 年 6 月に予定している運用開始も遅れる見通しとなりました。今後、原因調査と対策検討の結果を踏まえ、スケジュールの見直しを行っていきます。

以上

風量不足の内容：管理区域用送風機及び管理区域用排風機について、単体作動試験の一環としての 2 台運転試験時<sup>※2</sup>に、所定の風量に達せず。なお 1 台ずつの性能は所定の性能達成を確認。



※1) 放射性物質の閉じ込めのため施設内を負圧に保つとともに、排気から放射性物質を除去する等の機能を有する設備。

※2) 送風機、排風機はそれぞれ 3 台設置、通常運転時は 2 台運転（1 台予備）。